令和８年11月

令和８年度 全国学力・学習状況調査結果

豊能町教育委員会

■ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■ 対象学年

小学校第６学年、義務教育学校前期課程第６学年、支援学校小学部第６学年 ＜豊能町…実施児童数 85 人＞
中学校第３学年、義務教育学校後期課程第３学年、支援学校中学部第３学年 ＜豊能町…実施生徒数 82 人＞

■ 調査内容

① 教科に関する調査(小学校等【国語、算数】、中学校等【国語、数学、英語】)
② 質問調査(児童生徒に対する調査、学校に対する調査)
※教科に関する調査は、国語、算数・数学、中学校英語を実施(中学校英語は、CBT・IRT 方式にて実施)
※児童生徒質問調査は、原則全ての児童生徒を対象に、オンライン方式により実施

■ 実施日

令和8年4月 23 日(木)
※中学校英語(聞くこと・読むこと・書くこと)は、4/20～4/23 の期間内で指定日に実施
※中学校英語(話すこと)は、4/24～5/29 の期間内で指定日に実施



■ 平均正答率・平均 IRT スコア・無回答率の状況

	教科 (設問数)	平均正答率(国語・算数・数学)・平均 IRT スコア(英語)			無回答率		
		豊能町	大阪府	全国	豊能町	大阪府	全国
小学校 義務教育学校 前期課程	国語 (13)	60%	59%	60.9%	2.7%	3.3%	3.4%
	算数 (16)	55%	56%	56.4%	1.9%	3.1%	3.2%
中学校 義務教育学校 後期課程	国語 (15)	61%	61%	63.9%	5.8%	5.8%	4.9%
	数学 (16)	56%	55%	57.0%	13.0%	12.3%	10.4%
	英語 (7)	531	497	499	4.5%	7.1%	5.3%

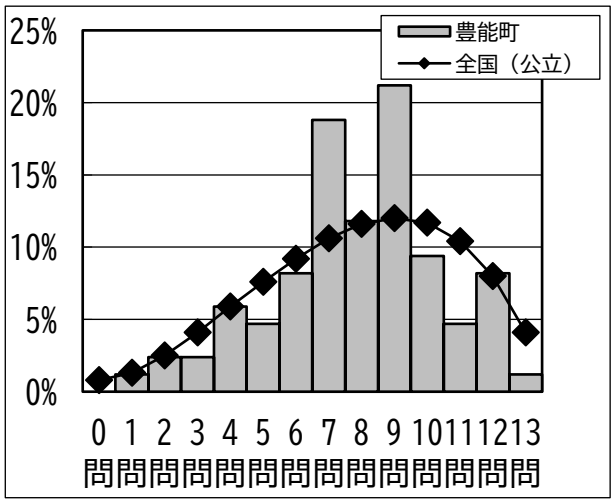
※中学校英語は１人１台端末を活用したオンライン(IRT 方式)で実施。IRT とは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。問題は、全生徒が取り組んだ問題と生徒ごとに異なった問題(公開及び非公開問題)があります。
※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

■ 教科に関する問題の調査結果

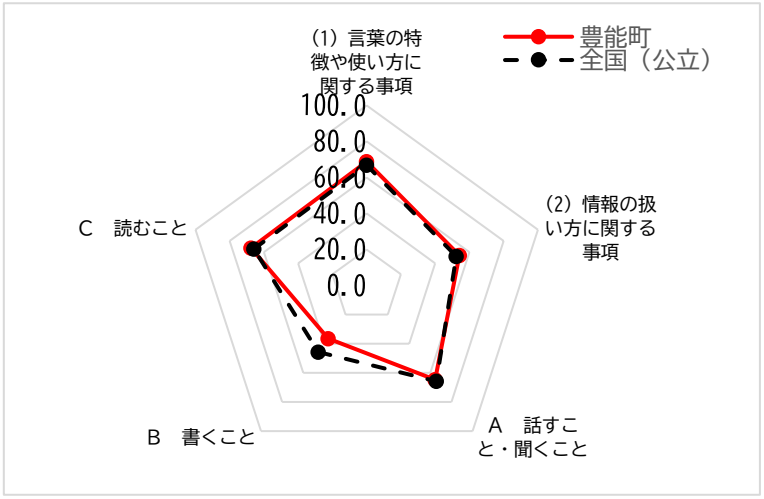
小学校(義務教育学校 前期課程)

◇国 語

◎言葉の特徴や使い方に関する問題は、概ねできており、話や文章の種類とその特徴について理解することができている。
△「書くこと」では、自分の考えが伝わるように情報を集めることや、条件にそって書くことに課題がある。



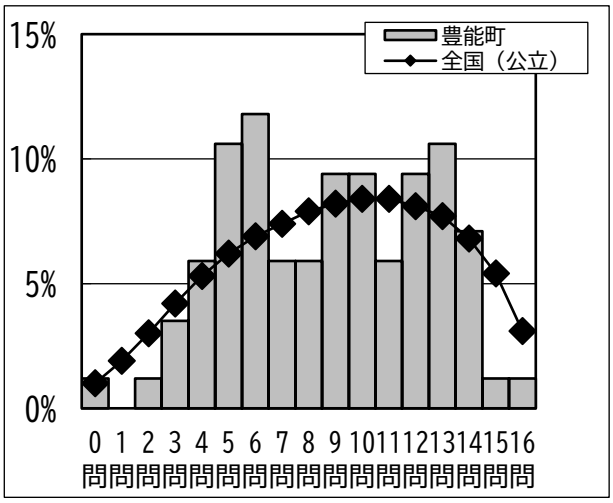
正答数分布グラフ(%)



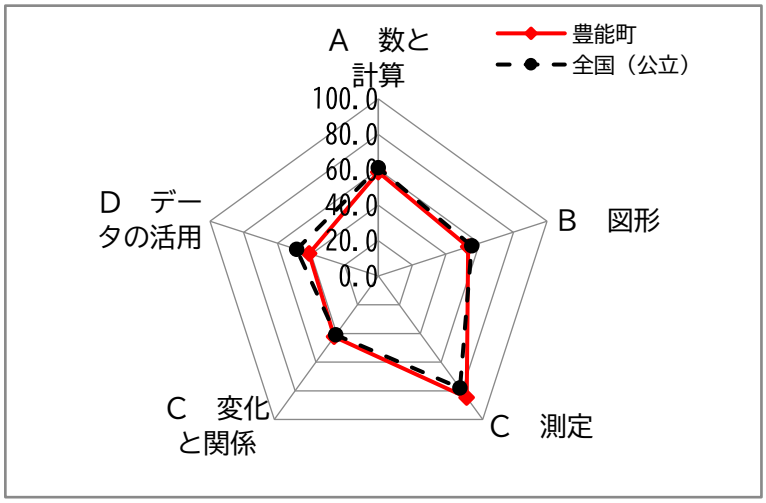
領域別平均正答率(%)

◇算 数

◎「数と計算」の領域では、数の仕組みの理解や基本的な計算については概ねできている。
△「データの活用」の領域では、表から条件に合う数を読み取ることに課題がある。



正答数分布グラフ(%)

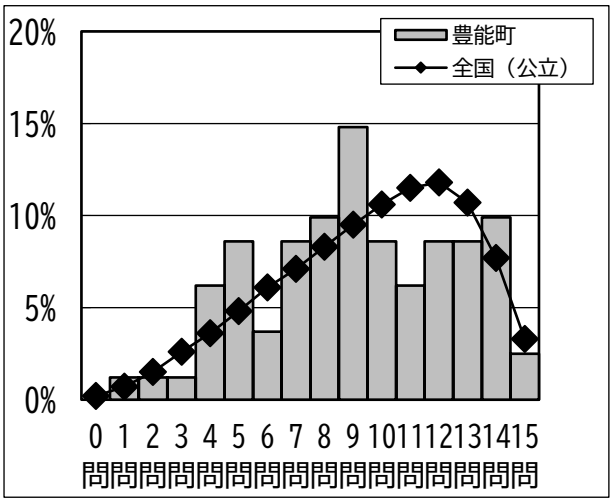


領域別平均正答率(%)

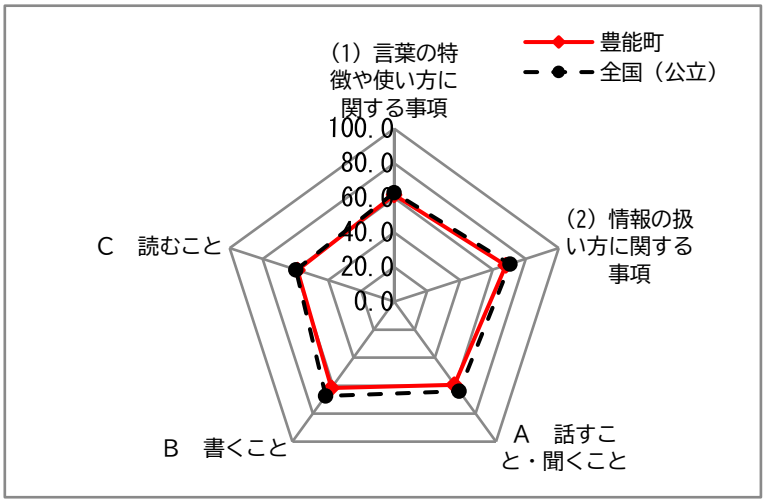
中学校(義務教育学校　後期課程)

◇国　語

◎「読むこと」では、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することは概ねできている。
△「書くこと」では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを書くことに課題がある。



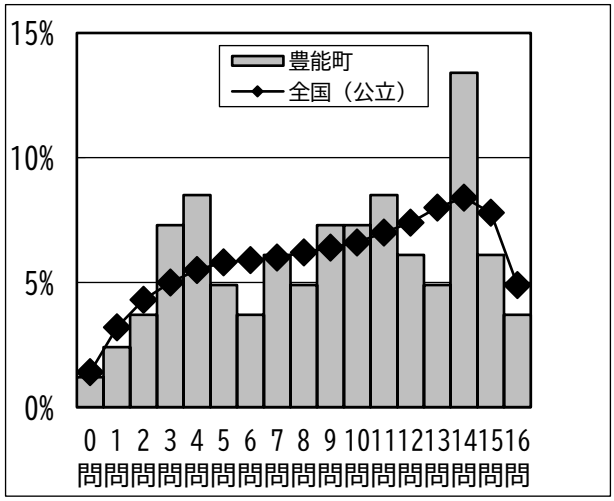
正答数分布グラフ(%)



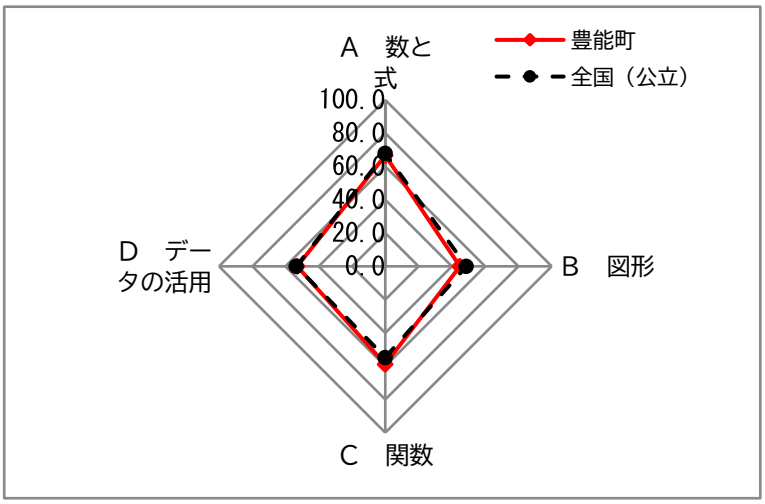
領域別平均正答率(%)

◇数　学

◎「数と式」の領域では、数量の変化や状況を正と負の数で表すことについては概ねできている。
△「図形」の領域では、筋道を立てて考え、証明することに課題がある。



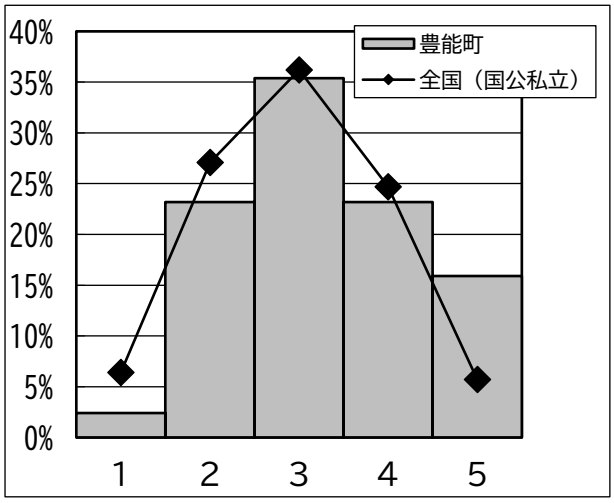
正答数分布グラフ(%)



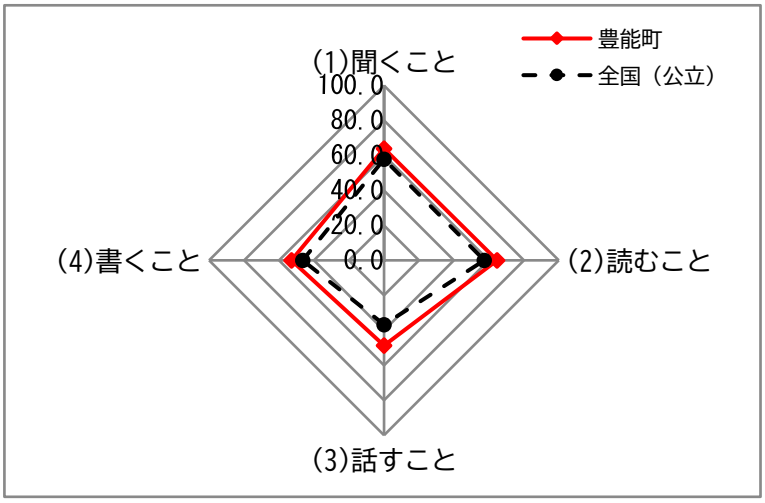
領域別平均正答率(%)

◇英　語

◎日常的な話題に関する短い会話や文章を聞き取ったり、読み取ることで、概要を捉えることができている。
△社会的な話題に関して、自分の考えとその理由を書くことに課題がある。



IRT バンド分布グラフ(%)

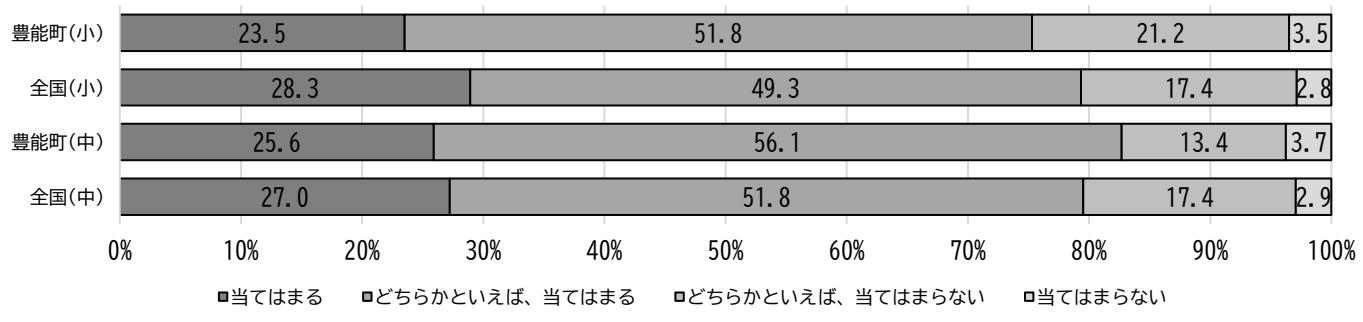


領域別平均正答率(%)

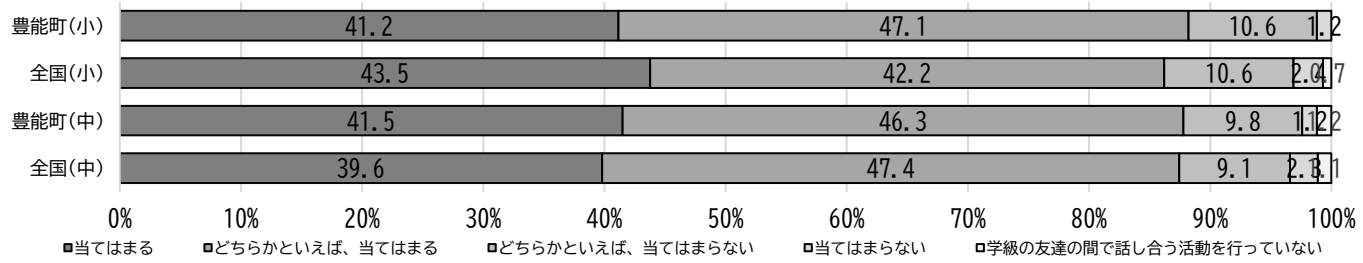
■ 児童・生徒質問紙の調査結果

主体的・対話的で深い学び・探究的な学習

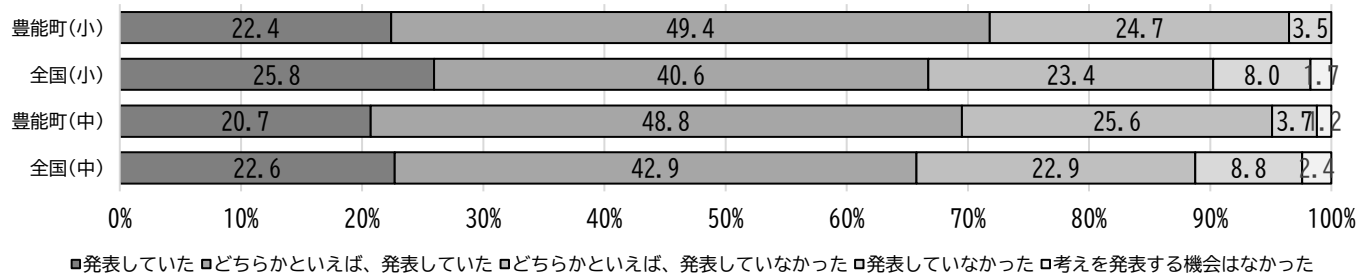
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



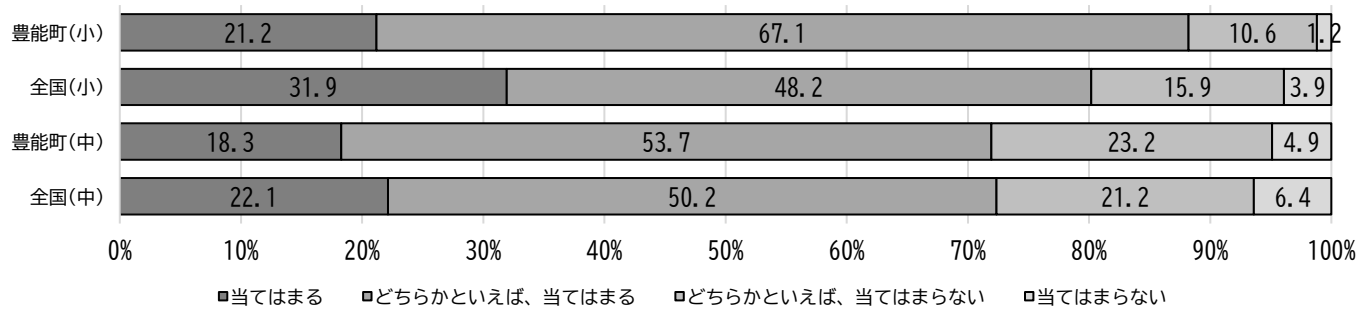
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか



授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

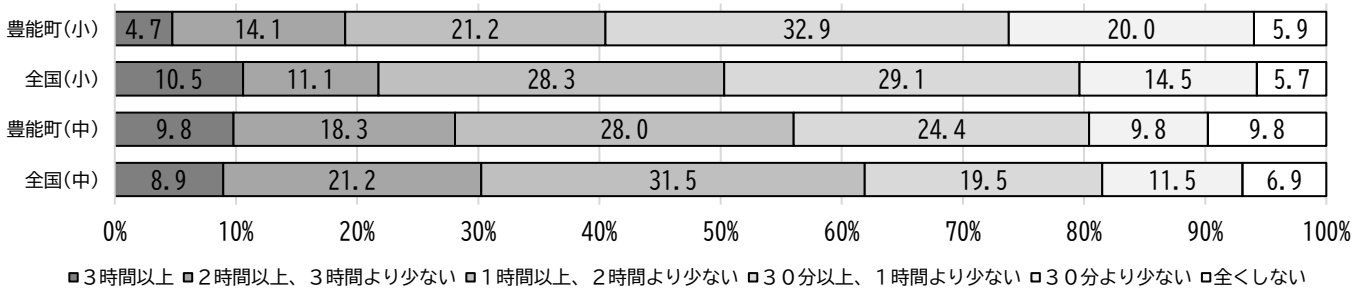


地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

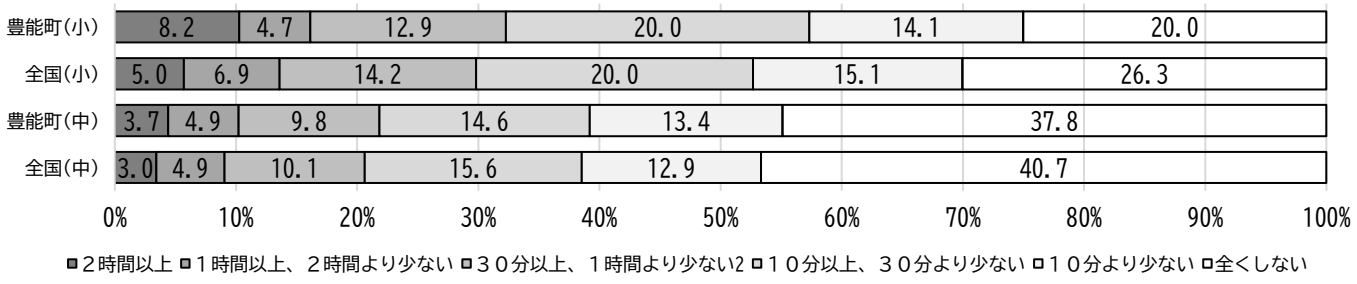


家庭学習・読書

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

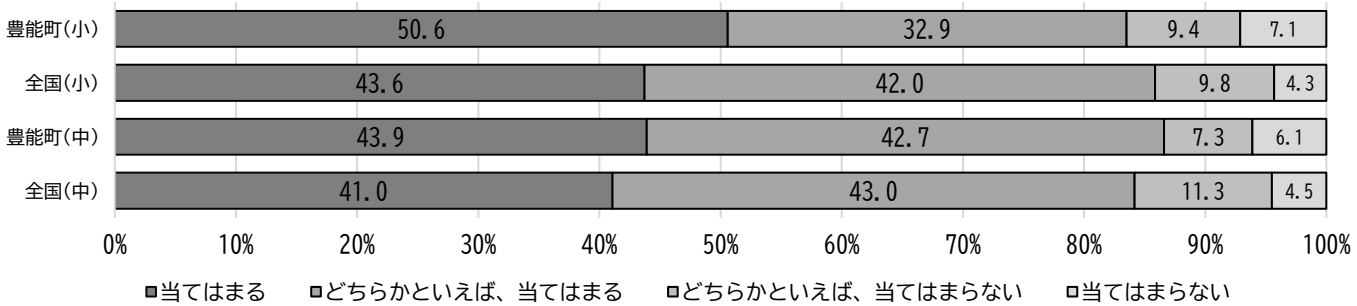


学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

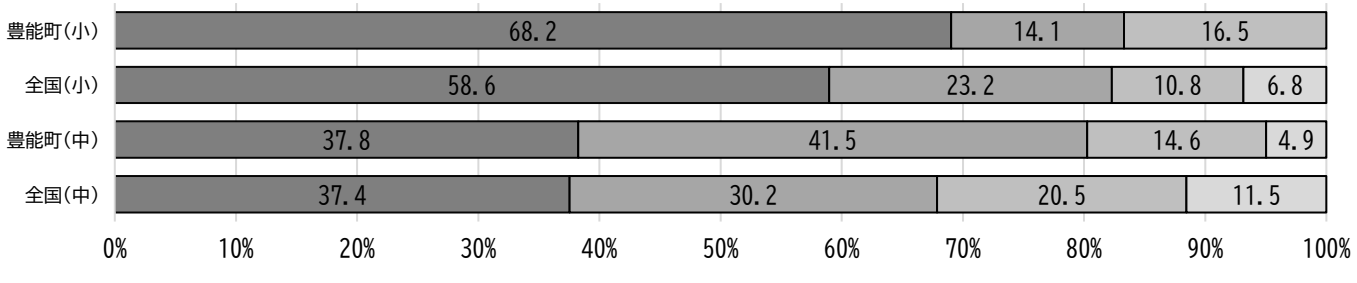


自己肯定感

自分には、よいところがあると思いますか

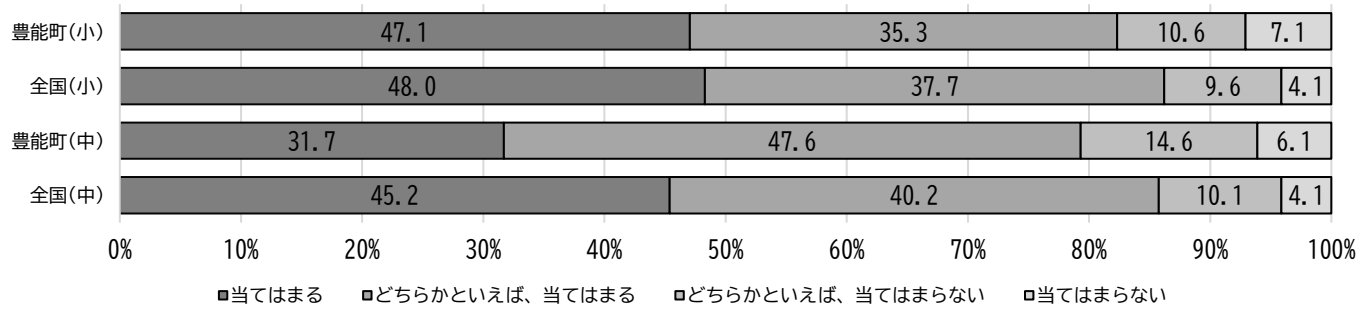


将来の夢や目標を持っていますか

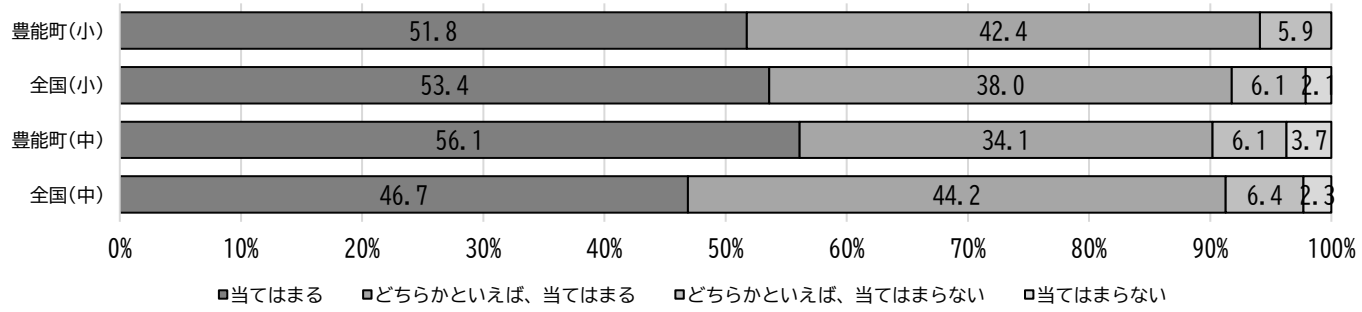


安心して通える学校

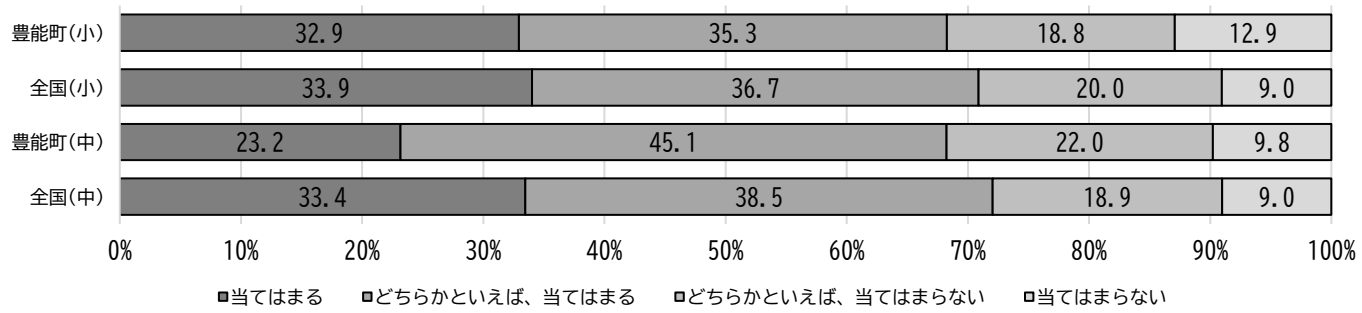
学校に行くのは楽しいと思いますか



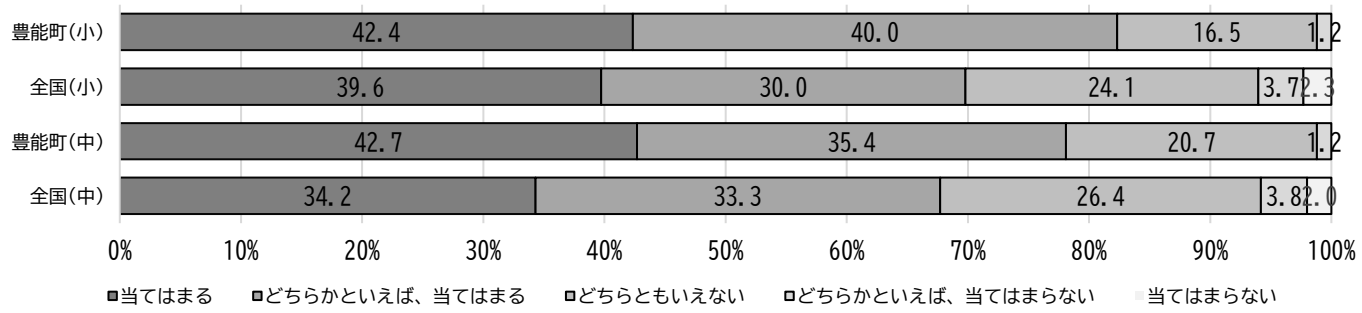
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか



昨年度の質問紙調査において、課題であった2つの項目について、改善が見られた。1つ目の「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」については、6年生(R7:68.9%⇒R8:75.3%)・9年生(R7:65.6%⇒81.7%)ともに昨年度より数値が大きく上昇しており、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が進んできたと考えられる。

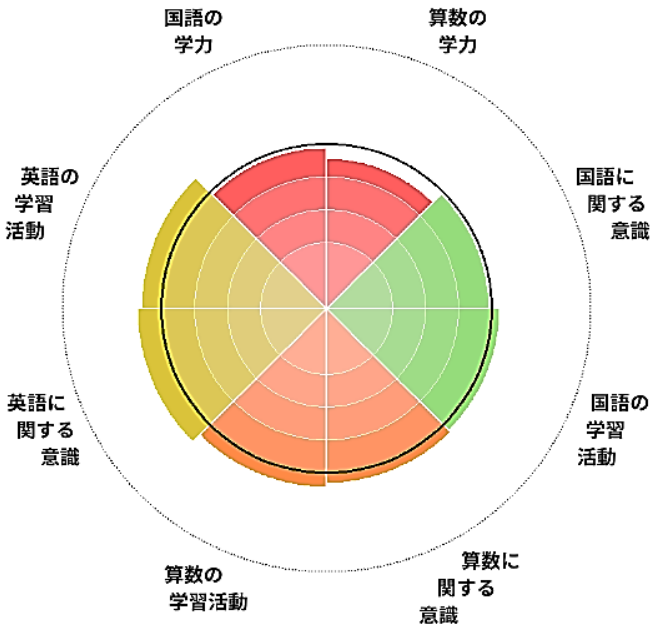
また、2つ目の「自分にはよいところがあると思う」についても、6年生(R7:67.6%⇒R8:83.5%)・9年生(R7:79.2%⇒86.6%)ともに昨年度より数値が大きく上昇しており、様々な教育活動を通して、自己肯定感を高めることができている。

しかし、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」については、30分未満と回答した割合が、6年生は約25%・9年生は約20%となっており、家庭学習に課題が見られる。

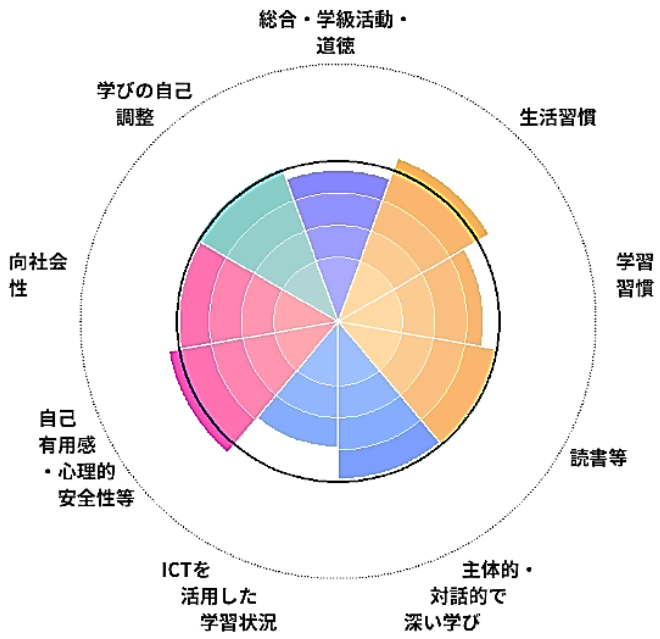
■ 調査結果チャート(全国基準)

小学校（義務教育学校 前期課程）

［教科を中心とした学力・学習状況］

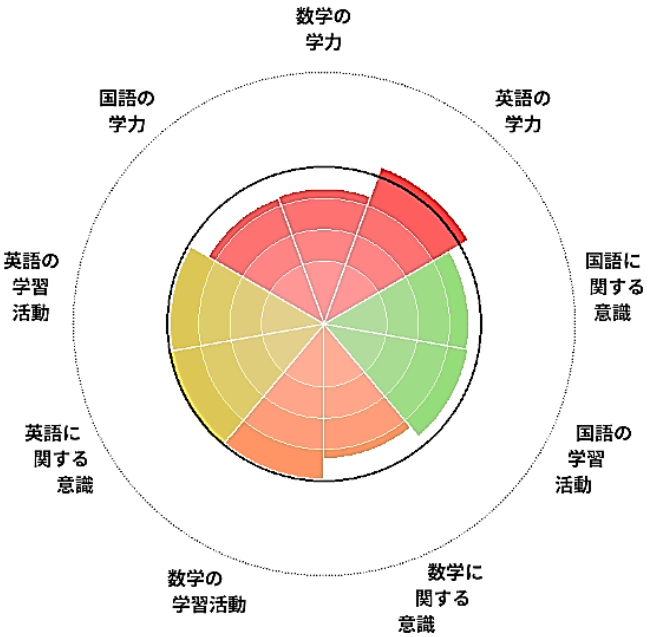


［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］

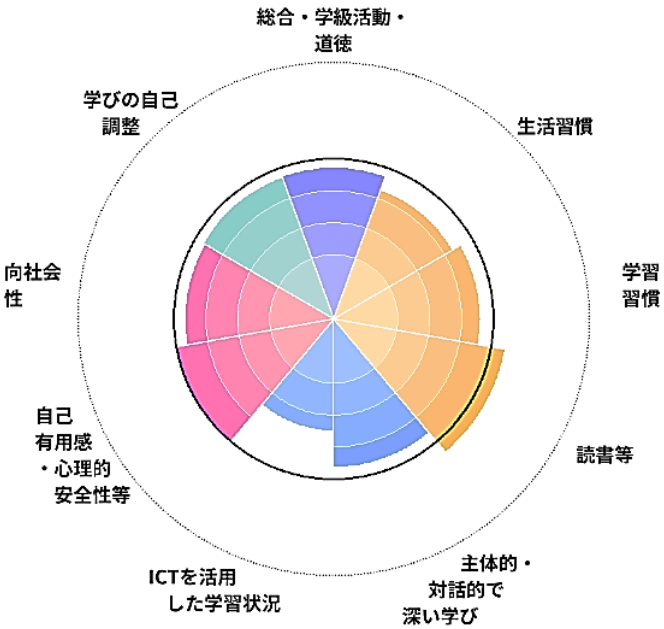


中学校（義務教育学校 後期課程）

［教科を中心とした学力・学習状況］



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］



■今後に向けて

豊能町学力向上プランに基づき、取組みを進めます。



豊能町保幼小中一貫教育　めざす子ども像

『豊能町に誇りをもち、自信をもって社会を生き抜く子ども』

具体的な取組み

①「学びに向かう力」の育成　～個々の目標や課題に合わせた学びの推進～

◈体験活動の充実

地域の豊かな教育資源を活用した体験的学習活動や協働的探究学習（とよの未来科）を通して、自ら課題を見つけ課題解決に向けて粘り強く学習に取り組む態度を育む。

◈『とよの学びのススメ（家庭学習のススメ）』の推進

自学自習ノートに取り組み、自ら課題を見つけ進んで学習に取り組む学習習慣の確立をめざす。

・「とよの学びのススメ（家庭学習のススメ）」
https://www.town.toyono.osaka.jp/data/doc/1784077295_doc_100_0.pdf

◈『とよの授業スタンダード』に基づいた授業づくりの推進

ユニバーサルデザインの視点を大切にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりをおこなう。

・「とよの授業スタンダード（教員用）」
https://www.town.toyono.osaka.jp/data/doc/1784859056_doc_100_0.pdf

・「とよの授業スタンダード（児童生徒用）」
https://www.town.toyono.osaka.jp/data/doc/1784859060_doc_100_0.pdf

◈児童生徒が学習をふり返る時間の確保

各授業の終わりや行事の後など様々な場面でふり返りの時間を保障し、児童生徒が自分の学びや成長を見つめ、自ら課題を設定する力をつける。

②「表現力（書く力）」と「情報活用能力」の育成

◈表現力（書く力）の育成

情報を収集し整理・分析して、自分の考えをまとめ、相手や目的に応じて表現方法を工夫する力を育む。

◈教科横断的な学習の充実

各教科の見方・考え方を働かせながら個々の知識を関連付けて思考し、実際の場面に生かす授業づくりに取り組む。

◈協働的な学びの推進

児童生徒が探究する課題を見つけ、資料などを多面的・多角的に考察したり、根拠や理由などを明確にして議論したりする力を育成する。

◈大阪府情報活用能力ステップシート等の活用

義務教育９年間で発達段階に応じた情報活用能力を育成する。

・「大阪府情報活用能力ステップシート」
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/62072/osaka_jyohokatsuyounouryoku.pdf